



当日のタチウオ仕掛け

●Tackle Guide
 近年ではテンビン用のタチウオオモリも硬軟様ざまなタイプがある。オモリは40～80号を使い分けるので、どのオモリに合わせた竿を選ぶか悩むところだが、誘いやささ、疲れにくさを優先するならば硬めの調子、食込みのよさを優先するならば軟かめの調子を選びたい。



▲ツ抜けできれば上々
 ▼当日の良型は1メートルオーバー



▼釣れないと思ったら船長にアドバイスをもらおう



●船宿information

東京湾奥川崎
中山丸
 ☎044-233-2648
 (詳細は巻末の情報欄参照)

▶料金=タチウオ乗合一人
 1万500円(エサ、氷付き)
 ▶備考=予約乗合。6時45分出船。ジギングは人数限定で受付(予約時に確認)。別船はショートライトアジ乗合へ



中山 勝之船長

ハリの結び方一つにも気を遣わないといけないことを痛感、船長のアドバイスに感謝の日でした。次回からタチウオは得意種目になるかも？

流したが、反応が薄くなったように走水沖に移動した。こちらは水深60メートルとやや深い。それまでオモリは60号だったが、ここで80号に交換するよう指示が出た。
 反応は底近辺に出ているようで、タナを底から取る指示が出た。海底からハリス長+2〜4メートルがタナだ。かなり濃い反応が出ているとのことだが、魚が潮を気に入らないのなかなかアタリが出ない。たまにだれかが竿

を曲げるという感じだ。しかし釣れるタチウオのサイズはまずまずで、メーターオーバーの良型も顔を出した。
バラシの原因は…
 11時近くになり「観音崎に行きます」と移動が告げられた。ここは水深70メートル前後で、冬タチウオの本命ポイントだ。指示タナは海面から55〜60メートル。こちらの群れは小ぶりが多いがやる気があるようで、何人もの竿が同時に曲がり始める。私も竿を出すと、すぐにア

タリ。しかしエサが半分食いちぎられて終了。エサを付け替えて投入するとまたアタリ、しかしまたエサだけ食いちぎられる。こういうときは、船長に相談しよう。
 「アタリがあるけど食い込まない」と言うと、船長の答えは単純明快。「シヤク幅が大きすぎ。竿が硬そうなので、大きくシヤクと引つ張りつこになってエサが切られてしまう。シヤクリ幅を小さくしてみよう。そうか、アタリを出そうと焦って、シヤクリが大きすぎ

たのか、とさっそく修正。今度はアタリは続く。しかし食い込んだところで合わせても掛からない。やっぱりこの釣り苦手だと思っていると、船長が脇に来て、「ハリ見せて」と言う。
 ここで重大な瑕疵が発覚。私、タチウオの環付きバリの環(アイ)にハリスを通して深海結びで結んでいたのだ。船長いわく、「これだとハリが安定しないから掛かりが悪くなる」そう、環を通さずにサツと外掛け結びでハリスを結び直して渡してくれた。
 ハリの結び方でそんなに違うかと思いつつ投入するとあら不思議、いきなりハリ掛かり！さらにその後もほぼ百発百中、今までバラシまくりで苦労していたのが嘘のようにハリの結び方一つでこれほど変わるとは…正直、タチ

ウオバリなんてどう結んでも変わらないかと思っていた。ここ何十年もアタリは多いのにタチウオをバラシまくっていたのは、環に深海結びをしていたのが原因だったのか？
 そんなわけで久しぶりのタチウオ入れ食いを堪能して沖揚がり。釣果は11〜34本。私は12本で、数はそれほどびなかつたけれど、これまでバラシまくっていたのが8割以上(2回ほどハリスを飲み込まれて切られた)掛けられる高率になったのが最大の収穫だった。
 ハリの結び方一つにも気を遣わないといけないことを痛感、船長のアドバイスに感謝の日でした。次回からタチウオは得意種目になるかも？



▲中山丸のタチウオはテンビン専門で出船

タチウオのテンビン釣りは、私の苦手な釣り物の一つ。アタリは頻繁にあるのだけど、エサの先つちよばっかり食い逃げされたり、掛けたと思っただ直後にスカッと軽くなってバレたり、いくらアタリをもらってもその半分も掛けれないのがいつものこと。
 そんな難敵タチウオを狙いに出たのは猛暑のピークも過ぎた9月15日。船宿は東京湾奥川崎の中山丸、以前に夜ア

ナゴ釣りで乗せてもらってから久しぶりの訪宿だった。
悩んだら船長に聞く
 出船時間の1時間前に着くと、すでにほとんどの予約客は到着しているようで、空いていた右舷の胴に入れてもらう。6時45分の出船時間となり、船は運河の間をゆっくりと進み沖へと向かった。
 運河内を徐行している間、中山勝之船長が状況などをア

ナウンスするが、これがかなりいいねい参考になる。夏タチウオから秋タチウオへの移行期にかかっているようで、激しい誘いや速いシヤクリには魚が反応してこないようだ。狭いレンジを集中的に狙う釣り方なので、タナを道糸のマークで正確に取るのがポイントとのこと。
 また、軸太の重いハリはこのところ食いが悪いそうだ。自分だけアタリがない、掛からないときは何かしら原因があるのでは、悩んだ人は聞きに来てほしいと船長。この船長のアドバイスにこの日は救われることになった。
 最初のポイントは航程45分の第二海堡周り、タナは海面から20〜25メートルとアナウンスされる。25メートルまで仕掛けを下ろしたら、小さいシヤクリで鋭くエサを動かし、同じタナで誘いを4〜5回繰

り返す。
 アタリがなければ50センチほどタナを上げてまた小さくシヤクする、を上ダナの20メートルまで繰り返す。
 盛夏の活性の高いタチウオは広くタナを探って食わせることもあるが、この時期は魚がそれほど高活性ではないそうだ。これは濁り潮が入ってきたせいもあるらしい。
 まずは様子見で、竿は出さずにカメラを抱えて皆の釣りを見る。小刻みな誘いでステイを長めに入れる人、ユラユラとシエイクしながらアタリを待つ人、色いろな釣り方が見られる。
 魚の反応はいいようで、あつちこつちで竿が曲がり始める。サイズは80センチ前後で夏タチよりも一回り型がいい



▲季節によって誘い方にもコツがある

秋タチウオはムズ面白い 船長アドバイスで開眼!?

●東京湾奥川崎発→海堡周り→走水沖

フィッシングライター 伊井泰洋 Yasuhiro Ii

知得! Tips and Tricks
ハリ選びも悩ましい
 個人的に船上で迷うことが一番多い釣りがタチウオ釣りなのだが、ハリ選びにも色いろな種類があって迷ってしまう。アタリがあつて掛からないときはハリの大きさを替えたり、軸の太さを替えたり、形状を替えたりと迷走することが多い。
 中山勝之船長の話では、ハリの選択はかなり重要とのこと。その日の活性によってバラやすい形状もあるというので、迷ったときには操舵室にいて相談しよう。

◀どのハリが好みかタチウオに聞ければいいのに…